

自動車向け部品分野で世界を牽引 金型、設備、製品製造までの一貫内製による高付加価値化を実現

同社は、線ばね、板ばね、精密プレス品などの金属塑性加工および組立を産業とし、なかでも自動車ヘッドランプ、ドアロック向け製品、OA機器向け製品で高い世界シェアを持つ。金型、組立設備の設計から製品の製造まで一貫して内製するなど技術の高さに定評があり、ISO14001、ISO9001ほか、タイ工場でのIATF16949の取得など、グローバル化を推し進めることで環境面、品質面で海外メーカーからも選ばれる企業へと成長した。また、自動車向け部品のグローバルスタンダード構築に寄与してきた。

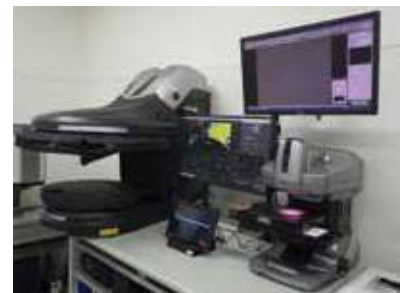
所在地 東京都大田区西六郷4-33-5
電話/FAX 03-3733-4681 / 03-3735-1087
URL <https://seihatsu.com/>
代表者 代表取締役社長 太田 和輝

設立 1960年
資本金 1,000万円
従業員数 250人



計画的な設備投資により、労働生産性を大きく向上

同社では、2017年に国から認定を受けた3ヵ年の経営力向上計画に基づき人材育成、コスト管理等のマネジメントの向上や設備投資などの生産性の向上に取り組んでおり、その一環として最新型のプレス機や測定機をはじめ、各種機械装置の調達や工場の増設など、計画的な設備投資を実施した。その結果、社員の技術力向上、より付加価値の高い工程への人員集約を実現し、労働生産性を大きく高めた。特に工場増設による組立ラインの増強は、同社の受注増加に対応する生産量の拡大および、生産効率向上に大きく寄与している。



最新型測定機

完全自動化による24時間生産を実現

生産性向上に向け、積極的な設備投資を進める一方で研究開発体制も強化しながら生産工程の自動化にも取り組んでいる。技術者の50%が国家資格を保有するなど人材育成にも力を入れてきた同社であるが、近年はロボット分野の技術者育成を強化しながら、搬送ロボットの内製化も実現。現在、組立工程は無人24時間生産体制で稼働しており、余剰人員をさらに付加価値の高い工程に割り当てることができている。このように同社の設備設計から製造工程までの一貫工程が革新的な生産プロセス構築に寄与してきた。



無人化された組み立て工程

ダイカスト品に代わる金属プレス品を開発

従来ダイカスト加工でしか製造が不可能であった部品の製造工程を抜本的に見直しながら、プレス加工へと切り替えを進めている。この取組は製造コストの大幅な低減を可能にするだけでなく、部品の軽量化による自動車の燃費向上や、OA機器や電気製品の省エネ化を通じて環境負荷低減も可能にするなどSDGs目標とも関連深い技術開発である。本技術の実現にあたっては、試作費用や高精度マイクロスコープなどの測定機、3Dプリンターの購入に補助金制度も活用しながら資金負担の軽減も図ってきた。



プレス加工工程による新たな取組